

提出日： 2026 年 4 月 10 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
文学部	教授	宮間純一

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。	
	1. 2025年4月 1日 ～ 2026年3月31日	1
	2. 2025年9月 1日 ～ 2026年8月31日	
	3. 2025年4月 1日 ～ 2025年9月20日	
	4. 2025年9月21日 ～ 2026年3月31日	
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。	
	英国ノリッジにあるセインズベリー日本藝術研究所・イーストアングリア大学の客員教授として、日本の皇室・英国の王室の交流史を研究した。特に、19世紀後半から20世紀にかけて作成された史料・文献を英国国立公文書館(The National Archives)などで収集し、日英双方の史料を利用した分析を行った。また、近隣諸国の公文書館などでも調査を行った。特に、天皇・王の代替わりにともなう儀式(国葬、戴冠式など)に見られる国際交流を中心に分析を進めた。さらに、滞在中、本研究テーマにかかわる学会・研究会などに参加し、関連分野の研究者と交流を深めた。	
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。	
	英国国立公文書館が所蔵する外交文書を中心に、英国に所在する関連資料を多数収集・分析することができた。100冊を超える点数の簿冊を写真撮影もしくは筆写し、必要な部分の日本語訳を行った。その成果の一部は、2026年2月26日に Daiwa Japan House (ロンドン)で開催された研究会(セインズベリー日本藝術研究所主催)にて「UK-Japan Relations through Imperial Succession: From "Showa" to "Heisei"」というテーマで発表した。本発表は、裕仁天皇の崩御、明仁天皇の即位に関する英国での反応を分析したものであり、関連分野の研究者らと充実した討論を行うことができた。	
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。	
	上記の調査・研究の成果を踏まえて、論文および書籍を発表する予定である。書籍については、2冊に分けて刊行することを計画している。 また、今回の研究では、英国との関係を主題としたが、他国との関係にも射程を広げた分析を今後展開していきたい。特に、英国と同様にオランダなど第2次世界大戦の記憶と裕仁天皇の存在が密接に結びついている国々については、英国の事例を相対化する上でも分析を進める必要がある。また、ヨーロッパのみならず、第2次大戦で日本と敵対した、あるいは統治下に置かれた東アジアの諸国やアメリカ・オーストラリアとの関係についても時間をかけて調査・研究を進めていきたい。	